

古典文学×伝統芸能×新技術

梁塵秘抄2021

cirque de kyoto

◇企業・団体との制作協力について◇

◆京都府神社庁との共創プログラム

京都の文化資源活用の観点から、「新猿楽記～cirque de kyoto～」の創成事業以来、創作やワークショップの稽古場として施設をご提供いただいている京都府神社庁との共創プログラムとして、京都の民衆の間で、古代から連綿と受け継がれ、現在にも息づく京都の民俗芸能とのコラボレーションを行った。京都府神社庁が所管する祭礼や民族芸能の研究を通じて、太古より、自然への畏敬から形成されていった「祭」の本質に迫りながら、そこで行われる「芸能」の意味を掘り下げ、京都の本質に迫ったパフォーマンスの構成を目指す。

◆大田神社について

○大田神社の起源

賀茂別雷神社(賀茂神社)の境外摂社の一つで、国の天然記念物に指定されている「大田の沢のカキツバタ群落」で有名な大田神社。その起源は定かではないが、延喜5年(905)、醍醐天皇の勅命で編纂された「延喜式神名帳」に記載があり、今から1,000年前の平安時代にはすでに祀られていたことが確認されている。上賀茂神社より古くから祀られていたとする学説もあり、賀茂県主族の移住以前より在住の農民から福の神として、長寿福德の信仰が寄せられていたとされる。地元では「大田さん」の名で親しまれている。



▲大田神社 拜殿

○御祭神について

大田神社の御祭神は天鈿女命。『古事記』によると、伊勢神宮の御祭神で日輪の神である天照大神が、弟の素戔鳴尊との確執から、天岩窟の中にお隠れになり、世の中が闇に支配される。そこで多くの神々が集い相談した結果、岩戸の前でにぎやかなお祭りをして天照大神を誘い出すことにした。そこで、舞を踊った神が「天鈿女命」で芸能上達の神様として、また、寿命長久の神としても知られている。

また、境内には百太夫を祀った百太夫社も勧請されている。百太夫の出自は不明だが、傀儡子や遊女が信仰する神であり、特に西日本各地の神社の末社として祀られる。一般に男神とされ、大江匡房の『傀儡子記』に傀儡子が百神を祀るとあり、今回のクリエイションにおける古典モチーフである『梁塵秘抄』や、匡房の『遊女記』に遊女が祀る神として百太夫の名が記されているなど「梁塵秘抄2021 cirque de kyoto」との深い所縁を感じる神社である。



▲大田神社夏の風物詩・カキツバタ



◆無形民俗文化財 大田神社の巫女神楽

大田神社の巫女神楽は地元で「チャンボン神楽」と称し、毎月十日夜のほか戦後に元旦、節分、二月二十四日のさんやれの際に行われている。
神楽を奉仕するのは大田神社の刀祢の家に限られ、銅拍子、鼓、絞太鼓の奏者と巫女の四人で構成される。太田神社が長寿の神を祀ることから、老人により囃し舞われる日本最古の形を残した神楽ともいわれている。

巫女舞の振りそのものは単純なもので、銅拍子と太鼓が同時にチャンという音を出し、次に銅拍子と鼓がポンという音を出す。このチャン、ポンという繰り返しを行う間に、巫女は鈴を右手に持ち、これを鳴らしながら右回りに三回、左回りに三回、さらに右回りに三回まわってまわり返す。
この巫女神楽は、参拝者の願によって舞うのを原則としていることから、願主は巫女神楽が終了すると、一人ずつ巫女の前に進み出て、巫女に頭上で鈴を鳴らしてもらっている。

史料上は「年中御神事次第」（『賀茂注進雜記』所収）によると、「大田神社神楽」として「毎月十日夜陰、大田社之神子参向執行之」と記されるほか、巫女神楽の諸道具を入れる箱の蓋裏に江戸時代の墨書銘が判読困難ながらも記されていることから、少なくとも近世には行われていたことが確認できている。

大田神社の巫女神楽は、単純素朴な形態に比較的古い様式をとどめ、また記録によりある程度年代が遡れるものであることから、かつて京都で行われた巫女舞の芸能や特色を知る上で大変重要なものである。

◆クリエイションへの反映

京都府神社庁のご紹介により賀茂別雷神社の禰宜で大田神社の神主を務める高井俊光氏と面会し、2021年1月10日に大田神社巫女神楽保存会の皆様の了解をいただき、取材を敢行した。
鈴を振る巫女の単純素朴な舞とリズムに、最も古い形の巫女舞の姿を確認し、平安時代の今様をモチーフとする今回の作品に必要な要素であると確信した。

大田神社の巫女神楽は神事のため、大田神社の社から出て舞うことはできないが、リズムや舞の動きをこの度の作品に活用することに関しては了承を得られたため、とっつ(クロワッサンサーカス)扮する女性の猿楽者を傀儡の巫女に設定し、チャンボン神楽の舞を作品の中に取り入れた。また単調なリズムは、今回の楽曲の作曲を行う稲葉明憲に提供され、単調ながら深みのある往古のリズムが楽曲に反映されている。



▲2021年1月10日に行われた大田神社巫女神楽の様子

※資料提供・大田神社

文責：「梁塵秘抄2021 cirque de kyoto」制作
プランナー
緒方 辰之介